



## 国立ハンセン病療養所多摩全生園を見学して



11月の末、秋の静かな一日、全生園をたずねた。

広い敷地の中、何軒かあるアパート風の建物は人の住んでいる様子はほとんどない。寺院や教会、学校もあった。子どももいたのだ。ここのイメージは、寂しげな切りとおしの道を初老の人が行き来している。静かだが少し暗い、そんな風景だった。しかし広々とした敷地と林にはそんな暗さはなかった。

林を抜けて「国立ハンセン病資料館」に着く。まず展示室。收容された患者さんの作業着のようなもの、部屋着など、村山大島風の気易そうな何点かが並ぶ。そして患者さんたちの作品、絵画、写真、みな誠実で静かなたたずまいだ。

戦後、私は、杉並、所沢、練馬とこの地にそう遠くない処に住んでいた。しかし一度も訪ねたことはなかった。

昭和二十年代、多くの関係書籍を読み、講演会にも出席した。結果、この病いが治らないもの、伝染力の強いものという概念を持ってしまった。その当時、すでに伝染力はごく弱く治癒する病気になり、他の国では開放治療に変わっていたことは教えられなかった。今ではこの病そのものが1年に数人しか発症せず、通院治療で簡単に治るものになったという。

資料展示室を学芸員さんの案内で見学した後、ハンセン病元患者さんの証言映像をホールで観た。

元患者さんの最後の説明。「現在ここに暮らす人は20人に満たないですが、ここで余生を送ります。ここを出ることはできないのです」。ずっしりと重いことばであった。

(グループリビングえんの森住人／布施杏子)



※この療養所で撮影された映画『あん』（河瀬直美監督）の市内上映会をきっかけに、ボランティア、職員、えんの森居住者有志で見学会を催しました。20数年前まで続いたハンセン病患者への人権侵害の歴史を知ることができます。清瀬、秋津、久米川駅からバスあり。

### ●有償ボランティア大募集！！●

送迎車運転、配食サービスお弁当配達、生活支援ヘルパー等々  
60才以上歓迎！！（問い合わせ：暮らしネット・えん事務局）